

滋賀県における鳥獣害対策と里山保全の取り組み

滋賀県農業技術振興センター栽培研究部
湖北分場 山中成元

1. 滋賀県の鳥獣害対策（試験）

1) 経過

2) なぜ、伐採＋放牧をするとよいのか？

2. 近江八幡市白王町での取り組み

1) 経過

2) 体制

3) 伐採と放牧の実際

4) 取り組んだ成果

5) 今後の方向

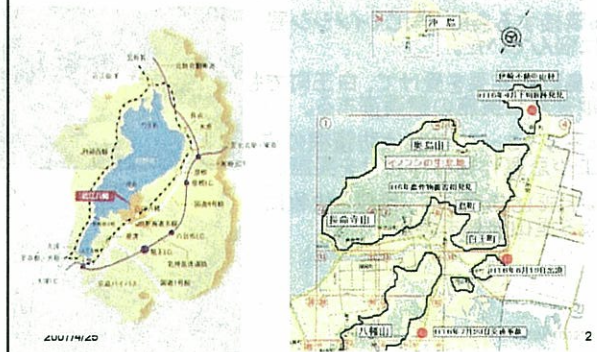
3. 動画による白王町の活動紹介

鳥獣害対策と里山保全の取り組み



滋賀県農業技術振興センター
栽培研究部湖北分場
山中成元

滋賀県近江八幡市白王町



滋賀県における獣害対策の経過

- 平成12年度(農業試験場湖北分場) 獣害対策試験の開始
- 平成13年度～(木之本町小山) 耕作放棄地での和牛放牧
- 平成15年度～(近江八幡市島町) 森林の強間伐+放牧(羊)
- 平成17年度～(近江八幡市白王町) 森林の強間伐+放牧(牛)、回避作物
(滋賀県農技センターと滋賀県立大との共同研究)



2007/4/25

3

伐採+放牧(緩衝地帯の造成)による獣害軽減効果



1. 伐採による空間の造成

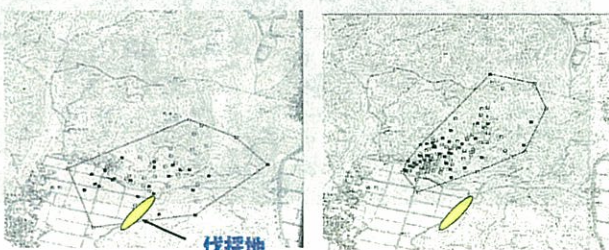


2. 家畜放牧による環境変化



3. 人匠の増加

森林伐採によるイノシシの行動圏の変化

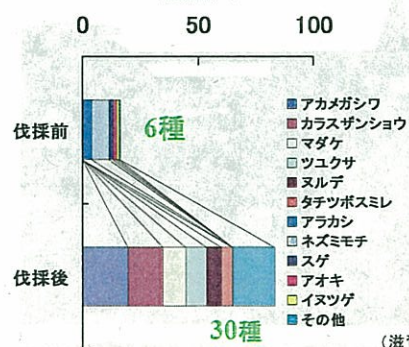


2007/4/25

近江八幡市島町(滋賀県立大学 2005)

5

被度(%)



(滋賀県立大学 野間)

伐採前後の植生の変化(近江八幡市島町)

白王町での活動の経過

- 隣接する島町と同じくイノシシ害に悩んでいた。
- 島町の結果を受けて、白王町でも獣害対策実施の機運高まる。
- 平成16～17年度は防護柵の施工や忌避作物の作付けを実施。
- 平成18年度から、伐採と放牧による里山整備を実施。



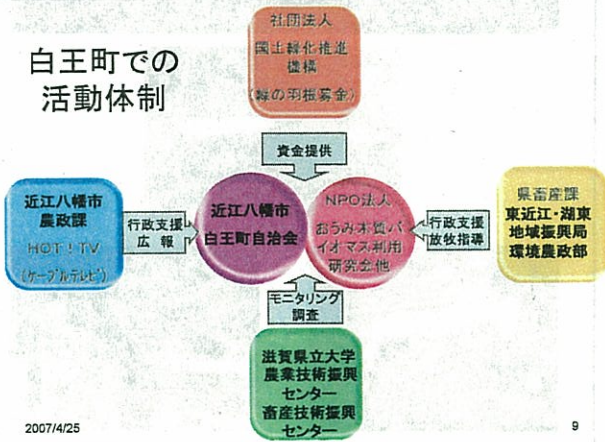
2007/4/25

伐採＋放牧の取り組みの概要

- 1) (社)国土緑化推進機構の「緑の募金」交付金事業を利用して、財源を確保
- 2) 整備の対象は水田に隣接した放棄田と放棄里山林
- 3) 伐採した木材は、NPOや地元住民等が利用
- 4) 伐採後は、畜産農家の和牛を放牧し、雑草管理
- 5) 放牧によるイノシシ行動および植生調査を実施

2007/4/25

白王町での活動体制



2007/4/25

9



草本類を伐採をして山際に緩衝地帯を造る

20

10



畜産農家の和牛を放す準備

2007/4/25

11



和牛放牧で雑草管理

2007/4/25

12

← 地元の住民が見学に

近江牛の宣伝 →

2007/4/25

放牧後40日あまりで雑草が無くなった！

2007/4/25

14

伐採した木材は薪として利用

山積みチップにはカブトムシの幼虫がたくさん...

2007/4/25

放牧地

移動1

移動2

島町と同じくイノシシの行動が変化

活動の成果

1. かつての里山の景観が復活する機会となった。
 - ・ササ主体→多様な植生
2. 農家(住民)の意識が変わった。
 - ・「個々で農地を守る」→「地域の里をみんなで守る」
 - 里山整備の範囲を拡大し、継続的な活動へ
3. NPO、住民、大学、行政の連携のモデルとなった。
 - ・役割を明確にし、不足している部分を補完しあえた。

2007/4/25

17

今後の方向

- ・伐採+放牧による美しい里山景観の維持
- ・切り出された木(竹)材のエネルギー利用
- ・野生獣との共存を図るモデルとして普及
- ・近江牛の基盤整備に活用

2007/4/25

18

